

# コロナ禍における 自転車ロードレースの リスク・マネジメント —「ツール・ド・北海道2021」 の新型コロナウイルス対策—



高松 泰 (たかまつ やすし)  
公益財団法人ツール・ド・北海道 常務理事

1954年北海道生まれ。77年北海道大学工学部卒業。同年北海道開発庁(現国土交通省)入庁、北海道開発局局長官房開発調整課防災対策官、国土交通省北海道局参事官、大臣官房審議官、北海道開発局長、北海道局長などを歴任。2014年北海道大学公共政策大学院特任教授を経て、18年客員教授。16年から現職。



堀江 洋一郎 (ほりえ よういちろう)  
北海道自転車競技連盟 理事長

1942年札幌生まれ。2006年公益財団法人ツール・ド・北海道協会参与、09年公益財団法人日本自転車競技連盟理事、15年北海道自転車競技連盟理事長、16年公益財団法人日本自転車競技連盟評議員。

我が国における国際自転車ロードレースの一つである「ツール・ド・北海道」は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、2020年・2021年の2年間にわたり大会開催を中止することとなりました。多くの皆様方から大会開催を望む声をいただいておりますが、期待にお応えすることができず申し訳なく思っております。

本稿は、COVID-19感染拡大以降、世界の国際ロードレース再開に向けた取り組み、特に新型コロナウイルス対策の取り組みに着目して、リスク評価や「バブル」と呼ばれる対策等のあり方及びその現状について紹介し、これらを踏まえた「ツール・ド・北海道2021」におけるリスク評価と対策案などリスク・マネジメントの概要を取りまとめました。さらに、北海道自転車競技連盟では地域に根差した小規模な自転車ロードレース再開に取り組んでおり、小規模な自転車ロードレースにおけるリスク・マネジメントについても紹介します。

今後、COVID-19パンデミックが収束していくことが望まれますが、本稿が、ある程度のリスクをコントロールしてイベントを開催する可能性を検討する際の一助になることを期待します。

## 1 国際ロードレース開催の動向について

国際自転車競技は、国際自転車競技連合(Union Cycliste Internationale、以下「UCI」と表記)のホームページ「UCIカレンダー」\*1に登録されています。競技は「ロード」「トラック」「マウンテンバイク」「BMX」「パラサイクリング」などの種類があり、ロードレースは「世界選手権」や「ワールド・ツアー」などの上位クラスのツアーと、アフリカ・アメリカ・アジア・ヨーロッパ・オセアニアの5大陸で開催されるUCIコンチネンタルサーキットなどに分類されます。さらにコンチネンタルサーキットは、「プロ」、「クラス1」、「クラス2」の3つのカテゴリーに分かれており、一日だけ開催される場合は「ワンディレース」、数日間にわたって様々なコースで行うレースを「ステージレース」と呼んでいます。「ツール・ド・北海道」はアジアのコン

\* 1 <https://www.uci.org/road/calendar>

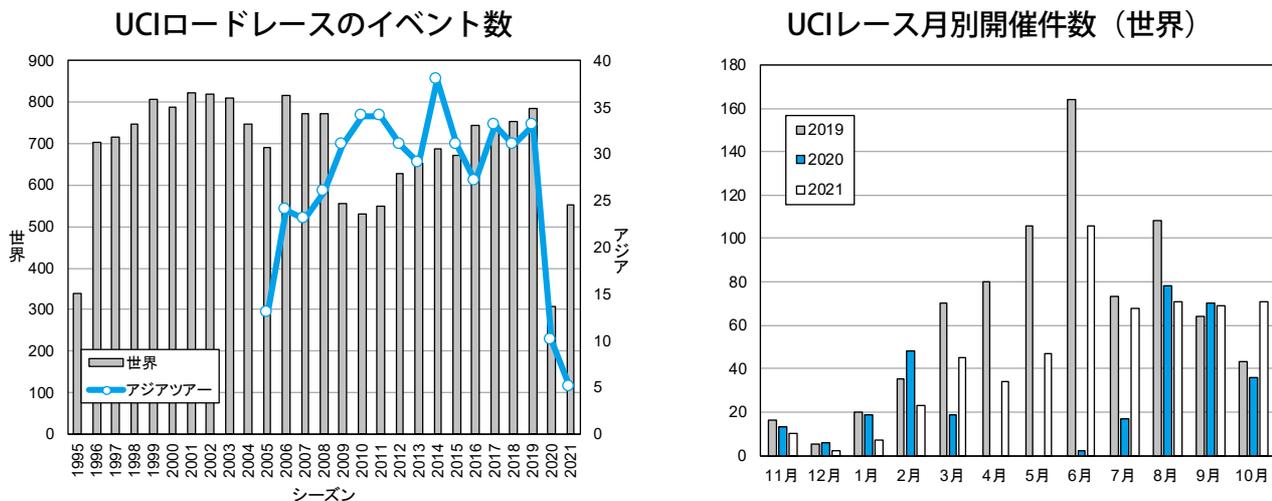


図-1 UCIロードレース開催数の推移

表-1 2021シーズンにおける新型コロナウイルスに起因するUCIレース中止の状況

|       | Nov | Dec | Jan | Feb | Mar | Apr | May | Jun | Jul | Aug | Sep | Oct | 合計  |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| レース計画 | 13  | 7   | 22  | 46  | 74  | 77  | 113 | 161 | 109 | 107 | 109 | 80  | 918 |
| 内中止決定 | 3   | 4   | 9   | 9   | 13  | 19  | 35  | 16  | 25  | 27  | 16  | 13  | 189 |
| 中止率   | 23% | 57% | 41% | 20% | 18% | 25% | 31% | 10% | 23% | 25% | 15% | 16% | 21% |

チネンタルサーキットの一つとして開催されており、「ME2.2」（メンズエリートのクラス2のステージレース）のカテゴリーで開催される国際レースです。

UCIカレンダーを基にUCIレース開催の推移を図-1にまとめました。全世界で見るとレースの開催数は、2020年に急激に減少しており、新型コロナウイルス感染増大に伴う大会中止等の影響が見て取れます。アジアツアーも2020年から2年続けて開催数は激減しています。

全世界の月別開催件数を見ると、2020年3月からレース開催件数が低下し4月～6月までは開催がゼロの状態、2020年7月に徐々に再開し、2020年8月には前年に近くまでの開催頻度に戻っています。2021年のシーズンは、UCIの調査（2021年8月20日）<sup>\*2</sup>によると計画の2割程度が「中止」となっているのが現状で、特にアジアツアーは今シーズン5回と非常に少ない状況にあります。

2020年7月にUCIは「コロナパンデミック禍における自転車ロードレース（シーズン）を再開するための

緊急規則」<sup>\*3</sup>を発行しました。この規則により自転車ロードレースの感染症対策の考え方が明らかになり、レース再開を促す重要なきっかけになりました。なお、WHOでは2020年2月の段階で「アウトブレイク下におけるマスギャザリング計画の推奨ガイダンス」<sup>\*4</sup>を発行しており、WHOのガイダンスがUCIを始めとする様々な分野のマスギャザリング対策等の礎となっています。

## 2 ツール・ド・北海道国際レースの新型コロナウイルス感染症対策

### (1) 準拠規定

UCIレースであることから前述のUCI規則に準拠するほか、国内のガイドラインとして日本スポーツ協会のガイドライン<sup>\*5</sup>、日本自転車競技連盟のガイドライン<sup>\*6</sup>に準拠する必要があります。また、北海道が提唱している「新北海道スタイル」の趣旨に沿った対応も行うこととし、これらの規定等をふまえた包括的なプロトコルを作成しました。

\* 2 List of postponed or cancelled events on the UCI International Calendar (by discipline) 20.8.2021

\* 3 Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic UCI Class 1 – UCI Class 2 events (July 28, 2020)

この規則は2020年8月28日付けで改正され、2021年3月8日付けで「Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic」と改名し現在に至っている。

\* 4 Key planning recommendations for Mass Gatherings in the context of the current COVID-19 outbreak Interim Guidance 14 February 2020

\* 5 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン(令和3年2月15日)」公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会。

\* 6 「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて (7月17日)」公益財団法人日本自転車競技連盟、2021年9月5日改定版が発行されている。

## (2) パンデミック深刻度の評価

UCI規則2020年8月版には表-2のようなリスクマトリックスが掲載されており、リスク状況（表の縦方向）と対策レベル（表の横方向）双方からイベントの総リスクを導き出す方法が紹介されました。一方、北海道では「警戒ステージ」を設け警戒ステージ1～5が定義されています（表-2左側）が、両者の評価分類方法は類似しており、ツール・ド・北海道のリスク評価では両者のステージ分類を関連付けてリスク評価（パンデミック深刻度評価）を行うこととしました。

なお、UCI規則2021年3月版で表-2は削除され、新規陽性者数、陽性率、検査率、実効再生産数の4指標を評価基準として、欧州疾病予防管理センター（ECDC\*7）によるカラーコードの評価を推奨しています。しかし、我が国では疫学的指標に加えて医療提供体制の負荷などを加えて総合的な感染状況指標を使用しており、ツール・ド・北海道ではレースのルートが医療提供や検査体制が脆弱な地方部を通過することもふまえ、北海道が定めている警戒ステージに沿ったリスク評価が望ましいと判断しました。

国際レースでは、最低5チームの外国チームを招待する必要があります。例年であれば半年前頃から招待

表-2 リスクマトリックス

| 北海道警戒ステージ |          | リスク対策レベル        |              |               |              |
|-----------|----------|-----------------|--------------|---------------|--------------|
|           |          | レベルD<br>(非常に高い) | レベルC<br>(高い) | レベルB<br>(中程度) | レベルA<br>(低い) |
| —         | 無視できる    | 非常に低い           | 非常に低い        | 非常に低い         | 非常に低い        |
| 1         | 非常に低いリスク | 非常に低い           | 非常に低い        | 低い            | 低い           |
| 2         | 低リスク     | 低い              | 低い           | 低い            | 中位           |
| 3         | 中リスク     | 低い              | 中位           | 中位            | 中位           |
|           |          | 中位              | 中位           | 高い            | 非常に高い        |
| 4         | 高リスク     | 高い              | 高い           | 非常に高い         | 非常に高い        |
| 5         | 非常に高いリスク | 非常に高い           | 非常に高い        | 非常に高い         | 非常に高い        |

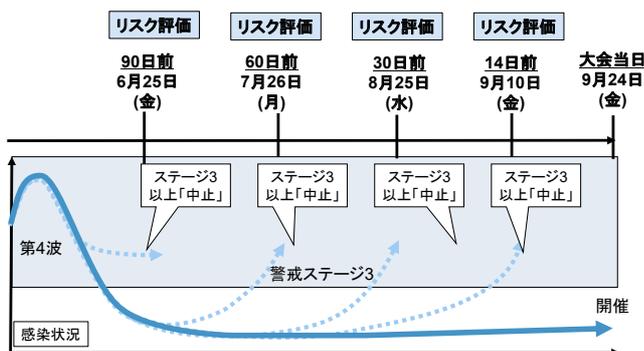


図-2 国際レースのリスク評価

チームに関する検討を行います。コロナ禍で厳しい入国制限がなされているため外国からのチームや審判の参加が難しい状況です。UCIでは、2021シーズンの特例措置として外国チーム招待の要件を満足しなくてもUCIレースとして開催できる旨の通知が発出されました。チーム招待は2カ月前がデッドラインとなっているため、大会90日前からリスク評価を段階的に実施することとして図-2のようなスケジュールを作成しました。

このような評価手順により2021年7月26日にツール・ド・北海道2021（国際レース）は「中止」することになりました。なお、パンデミック深刻度評価書はホームページに掲載しました。

## (3) レース・バブル

UCI規則では、「バブル」方式でチームやライダーを保護するという考え方で対策を講じることが示されています。具体的な考え方について、最近開催された世界各国の事例も参考にしながら、ツール・ド・北海道では図-3のようなレース・バブルを定義して、チームばかりでなく大会に参加する全てのスタッフやメディア、観客も含めた感染症対策を講じることとしました。「B1」はチーム関係者で最も厳しくコントロールを行うグループ、「B2」はチームと接触する可能性の高いグループで審判等が含まれます。「B1」「B2」の人達はバブルへの参入前にPCR検査が陰性であることが要件です。「B3」はチームとの接触のないスタッフで、その他メディアやゲストなど会場内に立ち入る人達には検温や問診による健康チェックを義務付けしています。

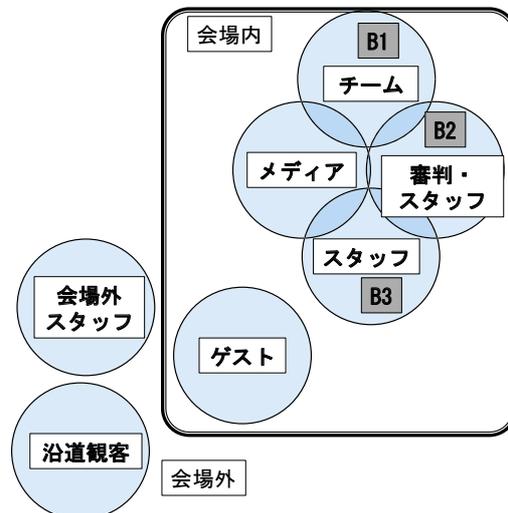


図-3 レース・バブルのイメージ図

\* 7 European Centre for Disease Prevention and Control

感染症対策は、A大会前の段階、Bバブルへの参加手順、Cバブル保護のフェーズ、D緊急事態対応（疑わしい症例が発生した場合の対応）の4つのフェーズに対して体系的な緩和策を検討しています（表-3参照）。

#### (4) 緩和策のプロトコル

レース・バブルを確保するための緩和策については、UCI規則及び前述した国内のガイドラインや北海道ライフを参照して、ツール・ド・北海道において実施するプロトコルを表-3のように整理しました。

#### (5) バブルへの参加手順

UCI規則ではPCR検査を72時間前に実施することが示されていますが、北海道では民間のPCR検査実施機関に限られており、調達可能な検査キットの殆どは検体を東京などに郵送する方式となっています。このため北海道では「72時間」をクリアすることは難しく、これを「1週間」に読み替えて運用することとしました。しかし、検体採取後の1週間に感染するリスクが否めません。このため大会前日に改めて抗原検査を追加実施することなどを検討しています。

大会前のヘルスチェックは、UCI規則では5日前から、国内のガイドラインでは14日前と規定されており、ツール・ド・北海道では14日前から行うこととし、スマホやPCによるデータ送信フォームを準備しました。PCR検査（抗原検査）とヘルスチェックをクリアすると、ホテル宿泊も含めてレース・バブルへの参加が認められます。

#### (6) 会場内のゾーニング

接触機会を低減しフィジカルディスタンスを保つため、「会場ゾーニング」「動線計画」が重要な役割を果たします。大会前日には「ライセンスコントロール」「監督会議」「レース・セキュリティ・ブリーフィング」「プレスカンファレンス」など様々な会議がセットされています。これらの会議を、チームが参加する会議、審判が参加する会議、マスコミが参加する会議など参加者のフロアを分けて完全に分離し、オンライン接続も活用して接触機会を減らすことにしました。また、会議室入室時の検温、手指消毒、室内換気等の感染症対策を徹底します。

レース当日は、スタートエリア・フィニッシュエリアの会場内は無観客として立ち入り制限を行い、ADカードによる入場制限を行います。会場内は、さらにチームピットを囲ってチーム以外の進入禁止措置を講じるとともに、本部テント、救護センター、広報センター、ドーピングコントロールステーションなどを分散配置して「密」を作らないための工夫を行いました。

#### (7) 観戦者のための広報拡充

スタート・フィニッシュともに会場内への観客立入を禁止するため、スタート・フィニッシュの様子を観戦することができなくなります。スタート・フィニッシュ以外の沿道観戦について、フィードゾーン以外は、大声を出さない等の注意事項を守って観戦いただくことが可能です。

また「開会式」は廃止、「表彰式」は無観客で実施又は「廃止」を検討しています。このような観戦場所

表-3 緩和策（プロトコル）の体系

| A 大会前                   | C バブルの保護                   |
|-------------------------|----------------------------|
| (1) コロナ対策の体制整備          | (9) 汚染物・ゴミ等の廃棄処理           |
| (2) 宿泊準備等 → 「ライフバブル」の維持 | (10) スタートエリアのアクセス制限        |
| (3) 疑わしい症例への対応手順整備      | (11) フィニッシュエリアのアクセス制限      |
| (4) 大会関係者の「行動管理」規定作成・周知 | (12) フィードゾーンの感染防止対策        |
| (5) PCR検査機関(民間自費検査)紹介   | (13) 観客対策(沿道観戦)            |
| B バブルへの参加手順             | (14) 出走プロセスの適合化            |
| (1) PCR検査 → 検査結果の提出     | (15) チーム車両・スタッフ車両の使用制限     |
| (2) 大会前ヘルスチェック → 問診票の提出 | (16) フィニッシュライン通過後のハグ禁止     |
| C バブルの保護                | (17) 救護テント・隔離テント           |
| (1) バブル保護、行動管理に関する一般事項  | (18) 開会式の廃止                |
| (2) ホテル宿泊に関する一般的事項      | (19) 表彰式の適合化               |
| (3) 大会期間中の健康チェック        | (20) ドーピングコントロールステーションの適合化 |
| (4) 主催者が実施する検温          | (21) コミュニケ・リザルト配布の電子化      |
| (5) ライセンスコントロール・前日会議    | D 症例への対応                   |
| (6) 会場内ゾーニング・導線計画       | (1) 救護テント・隔離テント            |
| (7) 共通エリア内のフィジカルディスタンス  | (2) 疑わしい症例への対応             |
| (8) 共通エリア内の清掃・消毒        | (3) 確定症例への対応               |

の限定等の代替措置として、ライブ動画配信を行うこととしました。北海道の郊外部ではデータ通信環境が整っておらずレース全体のライブ動画配信は困難なため2019年に実施したようにステージレース終了後ハイライト動画をその日の夜に配信していますが、ピンポイントのライブ動画配信を組み合わせることで広報を拡充したいと考えています。

レースの「リザルト」は、従来は掲示板に掲示するとともにコピー配布のサービスを行っていましたが、電子化を進め、クラウドサーバーを使った情報共有を行い、ホームページやSNSへのスピーディーな掲載を行います。

#### (8) 疑わしいCOVID-19症例の管理

発熱など感染が疑われる症例者の発生に備えて、会場には救護テントのほかに「隔離テント」を設置し、宿泊施設には「隔離室」を確保します。疑われる症例者への対応は原則として、この隔離スペースで行うこととしています。また対応スタッフ用の防護具、抗原検査キット、パルスオキシメータ、移送用の車両等をあらかじめ準備します。さらに連絡網の整備、症例者問診用のリモート通信の準備、廃棄汚染物処理など想定される状況への備えを行います。

### 4 ツール・ド・北海道市民レース

市民レースは、2019年迄は国際レースと同時開催していましたが、2020年から国際レースと別日程別コースで開催することになりました（2020年はコロナ禍により「中止」）。

市民レースの準拠規定は、国内のガイドラインを使用しており、PCR検査は利用せず自己申告による14日前からのヘルスチェックを参加の要件としています。また、参加者数が多いことから集団の密集を作らないことが緩和策の要点です。大会朝の受付、検温、スタート前の集合など、後述する北海道自転車競技連盟主催のロードレースの場を利用させていただいて実証的に対策の検討を行い表-4を作成しました。

なお、市民レースは国際レースよりも大会準備に時間を要しないことから、募集開始のタイミングでリスク評価を行うこととし、8月20日の募集開始を想定し前日にリスク評価を行いました。北海道警戒ステージが「4」のレベルとなっていたため、市民レースも「中止」することとなりました。

### 5 北海道自転車競技連盟が主催するロードレースについて

北海道自転車競技連盟では、2020年シーズンは8月にレースを再開しました。2020年及び2021年の開催状況は表-5のとおりです。「Mt.Moiwa hill climb」は藻岩山観光道路を営業時間外（早朝）にレース専用を利用して実施しており、その他の大会は公園の園内等を利用したレースコースで、何れも一般交通に利用されている公道レースと異なり一般住民等とは隔離された空間でレースを行っています。

参加者にはレース前に、過去2週間の健康状態と行動履歴についてスマホやPCから専用フォームで送信してもらい、大会関係者はクラウド上で集計結果を共有しています。

表-4 市民レースの緩和策（プロトコル）の体系

|                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| <b>A 大会前</b>            | <b>C バブルの保護</b>        |
| (1) コロナ対策の体制整備          | (6) スタートエリアのアクセス制限     |
| (2) 宿泊準備等 → 「ライブバブル」の維持 | (7) フィニッシュエリアのアクセス制限   |
| (3) 疑わしい症例への対応手順整備      | (8) フィールドゾーンの感染防止対策    |
| (4) 大会関係者の「行動管理」規定作成・周知 | (9) 観客対策(沿道観戦)         |
| <b>B バブルへの参加手順</b>      | (10) 出走プロセスの適合化        |
| (1) 大会前ヘルスチェック → 問診票の提出 | (11) チーム車両・スタッフ車両の使用制限 |
| (2) 主催者が実施する検温          | (12) フィニッシュライン通過後のハグ禁止 |
| (3) 体調不良者は参加しないよう呼びかけ   | (13) 救護テント・隔離テント       |
| <b>C バブルの保護</b>         | (14) 開会式・表彰式の廃止        |
| (1) バブル保護、行動管理に関する一般事項  | (15) コミュニケ・リザルト配布の電子化  |
| (2) 会場内ゾーニング・導線計画       | <b>D 症例への対応</b>        |
| (3) 共通エリア内のフィジカルディスタンス  | (1) 救護テント・隔離テント        |
| (4) 共通エリア内の清掃・消毒        | (2) 疑わしい症例への対応         |
| (5) 汚染物・ゴミ等の廃棄処理        | (3) 確定症例への対応           |

表-5 北海道自転車競技連盟主催のロードレース

| 開催日                | 大会名                                  | 開催場所         | 参加数           |
|--------------------|--------------------------------------|--------------|---------------|
| <b>2020年</b>       |                                      |              |               |
| 2020/08/16         | Mt. Moiwa hill climb                 | 藻岩山(札幌市)     | 約130名         |
| 2020/08/23         | Sapporo小・中学生タイムトライアル<br>モエレ沼タイムトライアル | モエレ沼(札幌市)    | 約70名<br>約100名 |
| 2020/09/06         | 北海道自転車競技選手権大会                        | 函館市          | 約25名          |
| 2020/09/20         | 札幌市民体育大会サイクルロードレース                   | モエレ沼(札幌市)    | 約220名         |
| 2020/10/11         | 道新杯自転車ロードレース                         | 北長沼水郷公園(長沼町) | 約230名         |
| <b>2021年</b>       |                                      |              |               |
| 2021/07/18         | Mt. Moiwa hill climb                 | 藻岩山(札幌市)     | 約130名         |
| 2021/07/25         | 道新杯自転車ロードレース                         | 北長沼水郷公園(長沼町) | 約250名         |
| 2021/08/08         | 全国地域別自転車道路競走大会                       | モエレ沼(札幌市)    |               |
| 2021/10/17<br>(予定) | 札幌市民スポーツ大会サイクルロードレース                 |              |               |
| 2021/10/24<br>(予定) | Sapporo小・中学生タイムトライアル<br>モエレ沼タイムトライアル |              |               |

会場への入場時又は受付前には主催者による検温を実施しており、会場スペース等の状況に応じて「ウォークスルー方式」と「ドライブスルー方式」を使い分けています。



写真-1 ウォークスルー方式



写真-2 ドライブスルー方式

検温・健康チェックをクリアした参加者にはリストバンドを配布し会場内での着用を要請しています。ライダーは会場入場手続きを終えてから受付テントで自転車に取り付ける「タグ」を受け取りますが、受付テントはビニールシートで感染防止対策を講じています。

レース出走前の出走サインに代えて「義務的通過地点での点呼」としてタグを装着した自転車通過を電子的に確認しています。



写真-3 リストバンド



写真-4 義務的通過地点での点呼

これまでの経験では、会場内に一般の観戦者も検温・健康チェックを行い入場を許可していますが、会場を広く使っていることやMCによる感染症対策に関する効果的な場内アナウンスを行っていることもあり、問題となるような密集が生じている場面はあまりなく、朝の受付時や出走前の集合場所など限られた場面での対策が肝要と考えています。

## 6 まとめ

本稿はツール・ド・北海道2021の開催に向けて、昨年から約1年間に渡って検討してきたリスク・マネジメントの概要を取りまとめたものです。事前のリスク・アセスメント（パンデミック深刻度評価）、リスク回避のための緩和策（ミチゲーション）、リスクが疑われた場合の危機対応（クライシス・マネジメント）などリスク・マネジメントの基本に沿って整理しています。

残念ながら、2021年シーズンは「国際レース」も「市民レース」も中止となってしまいましたが、来シーズンの大会開催に向けては、最近のワクチン接種の進展や行動制限緩和に関する動向がウイズコロナであってもイベント開催の可能性が高まる要因として期待できるものであり、注視していきたいと考えています。これらもふまえつつ、さら到来シーズンの大会開催に向けた検討を深めて準備を引き続き進めていきたいと考えています。